

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2891600039		
法人名	特定非営利活動法人 淡路島シャロームの会		
事業所名	グループホーム くるま花木		
所在地	兵庫県淡路市久留麻236番地 (電話) 0799-74-2873		
評価機関名	有限会社 オフィスレオン		
所在地	兵庫県神戸市北区西大池2-12-1-516		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年 1月 6日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 6人, 非常勤 8人,	常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,520 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4	要介護2	3
要介護3	9	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	1
年齢	平均 85.2歳	最低 71歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内田医院(内科)、井上歯科(歯科)、東浦平成病院(内科、外科、眼科)
---------	------------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれており、設備は新しく、食堂など共用空間は広々している。近くに、お寺や神社があり、利用者の格好の散歩コースとなっている。事業所の隣に農園があり、そこで有機野菜を栽培しており、利用者も世話をし、収穫した物を食べている。
職員は、利用者の尊厳を第一に考え、最大限利用者本位のサービスが提供できるように努力している。また、事業所が地域密着型サービスであることをよく理解しており、地域住民が買い物や散歩のついでに気楽に訪れてくれるような事業所でありたいと願っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 今回は初めての評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ユニットごとに行われる会議(以下「ユニット会議」という。)において、全職員が評価の意義を理解すると共に、意見を述べ、自己評価に取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 事業所開設に際して地域住民の中に反対意見もあったため、運営推進会議では利用者の様子やサービス内容などを説明をしている。また、評価についても説明している。 開設後間もないこともあり、主に事業所側からの情報の提供にとどまっているため、今後、意見や提案などを求め、改善に役立てることを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 毎月、家族等に利用者の暮らしぶりなどを、「花木水便り」として送付している。また、家族などが面会に来たときにも、利用者の暮らしぶりなどを積極的に伝えて話をするようにし、家族などが意見や不満などを言いやすい様に努めている。現在、家族会の結成を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域の作業所が行っている出張喫茶を利用したり、トライやるウィークの受け入れを行ったり、近隣住民に花見の際に場所取りをしてもらうなど、地域とよい関係を構築している。 しかし、地域活動や行事の参加は十分にはできていないので、今後、積極的に行事などに参加して、地域との交流を深めてほしい。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう支援することや、地域の高齢者福祉の増進、人々が支え合う街づくりに貢献することを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に、理念を伝え理解を促している。また、理念を、玄関・事務所に掲示しており、日々確認できるようになっている。しかし、理念の理解が不十分であったり、日常の業務との関連性が理解されていない点も見受けられる。	○	さらに理念に対する理解が深められることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の作業所が行っている出張喫茶を利用したり、トライやるウィークの受け入れを行ったり、近隣住民に花見の際に場所取りをしてもらうなど、地域とよい関係を構築している。しかし、地域活動や行事の参加は十分にはない。	○	地域住民が、買い物や散歩のついでに気楽に立ち寄ってくれるような地域と密接した事業所でありたいとの希望が事業所内にことから、行事参加などによりさらに地域との交流を促進することを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとに行われる会議において、評価の意義を理解すると共に、それぞれの職員が意見を述べ、自己評価に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所開設に際して地域住民の中に反対意見もあったため、運営推進会議では利用者の様子やサービス内容などを説明をしている。また、評価についても説明している。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に、なかなか事業所になじめない利用者の対応について相談するなど、必要な連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、家族等に利用者の暮らしぶりなどを、「花木水便り」として送付している。また、家族などが面会に来たときにも、利用者の暮らしぶりを伝えている。家族会の結成を検討している。	○	家族会結成を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で家族等と会う機会があれば、積極的に話をして、家族などが意見や不満などを言いやすい様に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員との馴染みの関係を重視し、離職や異動などで職員の変更がある際は、利用者に対する影響を最小限にとどめるように職員配置をし、利用者にはスムーズに受け入れられるように紹介をするなど努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加し、レポートを作成し、全体で情報を共有できるようにしている。研修が計画的には行われていない。	○	事業所内外で、計画的に研修を進めていくことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設に際し他事業所へ研修に赴いたり、淡路市のグループホーム全体の研修や島内全域の高齢者福祉事業者の研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、音楽療法や食事だけに参加しに来てもらうなどして、職員などと顔なじみの関係をつくりながら、スムーズにサービスの利用が開始できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一方的に介護するのではなく、利用者から小さなことでも「ありがとう」と感謝の言葉を掛けられたり、優しい言葉を掛けられることなどにより、自らが支えられていることを実感している。また、利用者から長い人生で得た知識など多くを学んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際に、生活歴や意向を細かく聞き把握している。また、日々のかかわり合いの中で、入浴時間や食事の希望など利用者の思い・希望などの把握に努めている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を踏まえ、ユニット会議において、職員間で意見を交換して計画を作成している。画一的な分析や課題ならびに目標となっている所もある。	○	それぞれの利用者について、より個別的に希望や課題を把握し計画を作成することを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット会議などで見直しを行っており、必要に応じて見直しを行う体制が出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、送迎、買い物、散歩など、個々の利用者の希望に柔軟に対応するよう努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族などの希望を尊重してかかりつけ医を選んでいる。また、適時受診や往診を受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の際に、終末期における事業所としての最大限の対応可能範囲について説明をし納得を得て、同時に家族などの希望も把握している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者と接する時は、ほこりやプライバシーに配慮し言葉掛けなどを行っているが、研修などは行われていない。	○	職員の理解を更に深めるため、プライバシー保護についての研修などを行うことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、買い物、散歩など、各サービスの時間帯は決まっているが、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞き献立を作成しており、苦手な献立は好みの献立に変更できるなど、必要な配慮が成されている。食器洗いをする利用者もいるが、衛生面の懸念から、食事の場面での利用者の関与が制限されている。	○	手指の消毒などにより衛生面の問題は克服することが出来るので、もっと利用者が調理、片付けなどに関与するよう工夫することを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日に関しては消毒の日としており入浴は出来ないが、それ以外の日は利用者の希望によって入浴が出来る。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノが得意な利用者の伴奏でみんながうたを歌ったり、それぞれの利用者の生活歴などを踏まえて、レクリエーションなどを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、近くの神社などに散歩に出かけており、そのほかにも希望に応じて臨機応変に外出の支援を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけない開放的な環境が重要と認識しており、鍵をかけて外に出られないようにするのではなく、玄関が開くと職員が携帯するPHS端末に通知されるようにして安全を確保しながら、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的の防災訓練を行っており、地域住民にも災害発生時には協力してもらえるように協定を締結している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、食事量や水分摂取量を記録して、その情報を職員間で共有して支援に役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体に清潔感があり、明るさもある。音に関しても、ピアノの音を流すなど心地よい。四季折々の花を飾るなど、季節感も表現されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたもの、例えば、カーテンやタンスなどが持ち込まれている。さらには、洋室が基本となっているところを、利用者の希望に応じて和室に変更しているなど、利用者が心地よく過ごせるように極めて柔軟に対応している。		

※  は、重点項目。